



ふれあいの丘天文館だより



★携帯写真週間★

『携帯電話で月の写真を撮ろう』

- 日時 5月14日(火)～17日(金)の毎日
第7回(午後7時15分～8時15分)および第8回(午後8時30分～9時30分)の観望時間に開催
- 内容 望遠鏡で拡大された月のクレーターなどを、お持ちの携帯電話やスマートフォンのカメラで手軽に撮影します。
- 場所 ふれあいの丘天文館
- 対象 一般(中学生以下は保護者同伴)
- 定員 観望時間ごとに15名
- 参加費 小中学生1名100円、大人1名300円(入館料として)
- 申込方法 開館日の午前9時～午後9時に電話で申し込み
- その他 参加者の皆さんが天文館の器材を使用して撮影した写真の著作権は、天文館と撮影者が所有することになります。

★今月の天文情報★ 水星、金星、木星が夕方の西の空で低空で接近

5月29日(水)の夕方、西の空の地平線近くに3つの惑星(水星、金星、木星)が集まる珍しい現象が見られます。

双眼鏡をお持ちの方は、日没直後に西北西の地平線から10度くらいの低い空に注目してみてください。一番キラキラしているのが金星です。そのすぐ下に木星が、少し上に水星が接近しています。安全のため、太陽が地平線に沈むまでは、決して目や双眼鏡を西の空に向けないよう、注意してください。



問 ふれあいの丘天文館 ☎(28)3254

申 詳しくは

ふれあいの丘自然観察館だより

自然観察館では、春恒例の「世界のチョウ・日本のチョウ」のミニ企画展を開催しています。当館所蔵の中から、2,467匹(頭)の美しいチョウや珍しいチョウを展示しています。チョウの美しさだけではなく、生態の不思議さにも驚かされます。展示の中から、資料をもとに紹介しますが、ぜひ、実物をご覧ください。

☆変身の名人「コノハチョウ」

タテハチョウのなかまの多くは表側が美しく、裏側は環境にとけ込むような模様ですが、コノハチョウは「枯葉」そっくりで感心させられます。葉脈はもちろん、虫食いのような穴まであり、「擬態」のからくりには不思議さを感じます。しかも、その模様は1匹(頭)ずつ異なるくらい個体変異の大きいのも特徴です。



コノハチョウ(裏)

インド北部から中国・台湾そして日本では奄美群島にかけて生息しています。成虫は1年のうち数回発生を繰り返し、ほぼ年中見ることができ、

樹液などを吸います。幼虫はセイタカスズムシノウなどを食べています。沖縄県では、天然記念物として、採集を禁止し保護をしています。

☆「シリアアゲハ」

中近東の樹木も少なく乾燥した山や砂漠が多い厳しい環境の中でほそぼそと生息しているチョウです。



シリアアゲハ

イタリアで中新世(新生代)の地層から発見された化石によく似ているため、「生きた化石」として注目されています。チョウはからだが軟らかく化石になりにくいため、多くは発見されていませんが、現在飛んでいるようなチョウは約4千万年前の新生代以降に現れたと考えられています。

当館では現在、「イランアゲハ」も展示しています。こちらとても貴重なチョウです。その小さな姿をぜひご覧ください。

～電話番号が変わりました～

4月からホテルを経由しないで、下記の番号で直接自然観察館へ通じるようになりました。

問 ふれあいの丘自然観察館 ☎(28)3251

申 詳しくは